【第７・８回】

精神科訪問看護

1. 定義

精神障害者の地域生活サポートシステムのひとつとして欠かせない重要な役割を担う

1. 機能

　精神障害を持つその人自身とその人がその人らしく生きること

QOLを高めることを共に考え、安心して生活できるように自己決定を支援し、サポートすること

1. 目的

　対象の生活能力や症状の変化を継続的に観察しながら、その時と場に応じて援助のレベルを調整し、

極端な憎悪を防ぐために予防的に介入していく

1. 対象者

　精神疾患を持ちながら地域で生活している人とその家族、周囲の人々

精神医療現場の実際

１．病院・施設から地域への急激な退院促進と入院の制限

２．医療依存度が高くても在宅へ

３．期待の訪問看護ステーションが伸び悩んでいる

４．その中で精神疾患のある人を訪問しているステーションはまだ全体の３割のみ

５．医療保険と介護保険法の同時改正の大改正（精神科訪問看護制度の開始）

訪問看護開始に向けての業務

１．情報収集

２．訪問看護の内容・料金の説明と契約

３．主治医へ訪問看護指示書の依頼

４．施設看護と地域看護の連携（引き継ぎ）と看護サマリー

５．自立支援法の申請および自立医療の申請

６．関連するケアシステムとの連携

７．病院との連携

訪問看護の効果

在宅療養支援の３本柱

１．通院・服薬

２．社会資源を使いながら地域で安定して暮らせる

３．セルフケアの向上と社会参加

１．生活者としての尊厳を持って暮らすことが出来る

２．症状の悪化を防ぎ、以上の早期発見に役立つ（クライシスプラン・セルフモニタリング）

３．社会参加

４．家族のレスパイトケアが出来る

５．入院せずに療養できる、重症にならないうちに医療につなげられる

６．本人の安心、家族の安心、医療者側の安心、地域の安心

訪問看護を行う上での心構え

コミュニケーション

基本的な姿勢

訪問を歓迎してない場合の訪問

特徴を踏まえた接し方

配慮する姿勢

援助と支配の関係理解

精神科訪問看護にまつわる葛藤地域で生活する精神障がい者

危機介入が必要な時

安定期の看護の重要性

〈地域での精神科訪問看護の視点〉

１．地域に根ざした医療、福祉、保健のコーディネーター的視点

２．アセスメント、看護力、リスクマネジメントの包括的視点

３．看護サービスの提供と健全経営を考えられる視点

〈在宅支援を継続するために必要なこと〉

★SST：生活技能訓練、社会生活技能訓練

・エンパワメント：

本来持っている力（ストレングス）を失った人が、取り戻す過程

１．期待に応えられる地域ケア

２．地域に根ざした活動

３．アセスメントとリスクマネジメント能力

４．自己研鑽

５．事業の継続（健全経営）